



# 株主通信

2022年11月

エイチ・ツー・オー リテイリング 株式会社  
(証券コード:8242)

## トップメッセージ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

2023年3月期第2四半期の連結業績は、新型コロナウイルス感染症の影響が残り、また、資源高騰や世界レベルの物価高の影響を受け、先行き不透明な中で推移しました。しかしながら、外出制限を伴う緊急事態宣言等の発令がなかったこともあり、百貨店事業を中心に売上高が大きく回復し、売上高304,425百万円(前年同期比128.4%)と大幅な増収となりました。

また、継続的なコスト削減に取り組んだことから、営業利益は1,114百万円、経常利益は2,835百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,790百万円と予想を上回り、第2四半期の連結業績としては、営業損益及び経常損益は3期ぶりに利益を計上することができました。



代表取締役社長

あ ら き な お や  
**荒木 直也**

## 業績の見通し・配当について

上記のとおり、第2四半期の連結業績は、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は期初予想を上回りました。一方、新型コロナウイルス感染症による影響は最悪期を脱した感があるものの、まだ再拡大の可能性も否定できないことに加え、引き続き資源高騰や物価高の影響も踏まえ、第3四半期以降の事業計画に基づいて、通期の連結業績予想は売上高6,400億円、営業利益90億円、経常利益100億円、親会社株主に帰属する当期純利益110億円とし、配当につきましては、中間配当は前期と同額の1株当たり12円50銭、期末配当予想についても12円50銭とさせていただきます。

今後も不透明な経営環境が想定される中、本社ビル売却など利用効率の低い資産売却を進めるとともに、このたび政策保有株式の大幅な縮減を行い、同時に686万株(発行済株式総数(自己株式を除く)の5.57%)の自己株式の取得を実施、資本効率向上と株主還元に取り組みました。また、これらの結果得られた資金で、店舗の強化やIT/DXへの投資を継続的に推進していきます。

当社グループは、『「楽しい」「うれしい」「おいしい」の価値創造を通じ、お客様の心を豊かにする暮らしの元気パートナーとして、地域社会と子どもたちや地球の未来に貢献したい』というビジョンのもと、既存事業のさらなる磨き上げや新事業モデルの創出により小売業としてさらに成長していけるよう、グループ社員一丸となって、日々の活動に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 各事業の概況

### 百貨店事業

売上高※  
**716億円**  
(前年同期比130.5%)

総額売上高※  
**2,205億円**  
(前年同期比142.9%)

営業損益  
**16億円**  
(前年同期比 +57億円)

新型コロナウイルス感染症の影響は引き続き残るも、消費意欲の改善を受けて、売上高及び来店客数は回復傾向となった。光熱費の高騰等もあり販管費が増加したが、営業利益は黒字に転換。

### 食品事業

売上高※  
**1,983億円**  
(前年同期比139.3%)

総額売上高※  
**2,058億円**  
(前年同期比137.9%)

営業損益  
**16億円**  
(前年同期比 68.6%)

食品スーパー各社の既存店売上高は、コロナ禍で拡大した内食需要増大の反動で減少。仕入原価増や光熱費上昇等のコスト増の影響で減益。食品製造は前年休業の反動等で増収増益。

### 商業施設事業

売上高※  
**166億円**  
(前年同期比70.6%)

総額売上高※  
**175億円**  
(前年同期比71.2%)

営業損益  
**9億円**  
(前年同期比 +9億円)

(株)エイチ・ツー・オー商業開発は、直営売場の縮小により減収となるも、運営効率化によるコスト削減で増益。ビジネスホテルを運営する(株)大井開発は、客室稼働率の回復が進み増収増益。

### その他事業

売上高※  
**155億円**  
(前年同期比110.3%)

総額売上高※  
**177億円**  
(前年同期比111.0%)

営業損益  
**△16億円**  
(前年同期比 +8億円)

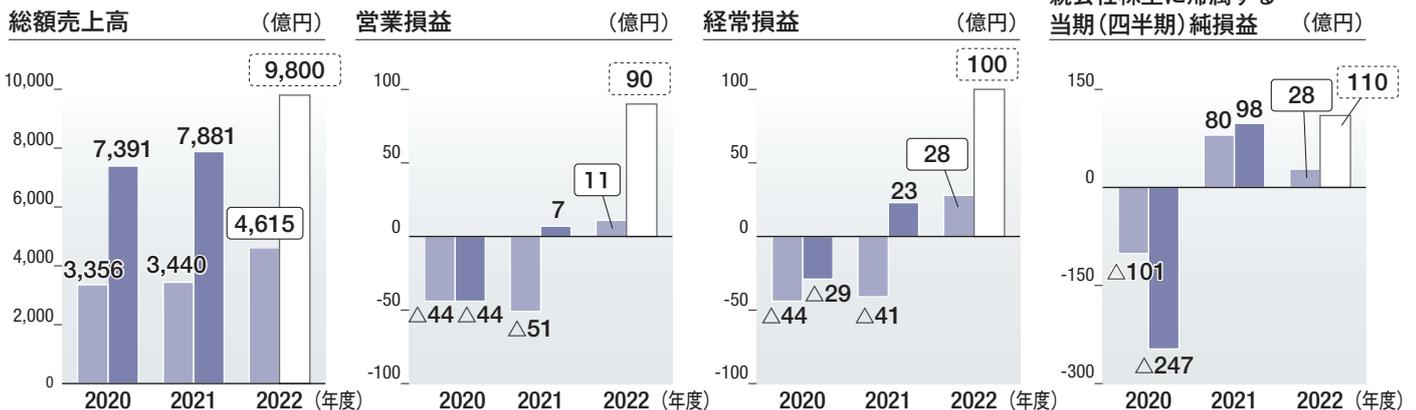
専門店子会社において、前年よりも休業店舗数や休業期間が縮小したことなどから、その他事業全体で増収となり、営業損失も縮小。

※前年度より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、百貨店の消化仕入取引等は、仕入価格を控除した額(純額)のみ売上高に計上しております。なお、当該基準適用前の従来基準で算出した売上高を「総額売上高」として記載しております。

## 連結決算概要

	第2四半期累計期間	通期予想
売上高	<b>3,044億円</b> (前年同期比128.4%)	<b>6,400億円</b> (前年同期比123.4%)
総額売上高	<b>4,615億円</b> (前年同期比134.1%)	<b>9,800億円</b> (前年同期比124.3%)
営業利益	<b>11億円</b> (前年同期比+63億円)	<b>90億円</b> (前年同期比1215.1%)
経常利益	<b>28億円</b> (前年同期比+70億円)	<b>100億円</b> (前年同期比426.3%)
親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益	<b>28億円</b> (前年同期比34.5%)	<b>110億円</b> (前年同期比111.4%)

■第2四半期 ■通期 (※2022年度通期は予想値)



## 神戸阪急・高槻阪急リモデル ～約20年ぶりの大規模改装を実施～

阪急阪神百貨店は、総額約100億円を投じ、神戸阪急および高槻阪急のリモデルを実施します。神戸阪急は都市型百貨店モデルとして、装いも含めた「神戸暮らし」の提案をプラスした店舗に、また高槻阪急は百貨店と専門店のベストミックスによる新しい郊外型百貨店モデルの店舗へとそれぞれ生まれ変わり、地域の皆様に愛される百貨店を目指します。

### ◆8月31日、神戸阪急に「Hankyu Mode Kobe」 「KOBE HANKYU BEAUTY」が先行オープン!

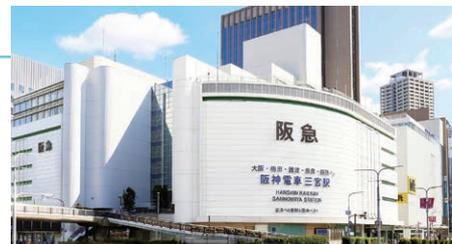
#### Hankyu Mode Kobe

新館1階～3階に異なる要素をミックスし1つにすることで生まれる新しいモードな体験により、心躍る豊かな日常を提供する新しいメゾン「Hankyu Mode Kobe」が誕生しました。本館とは独立した環境で、ファッションだけでなく、インテリア、カフェなど、「モード」を暮らしのアクセントとして取り入れる神戸流モードライフを提案します。



#### KOBE HANKYU BEAUTY

本館2階～4階には神戸地区最大級のビューティーワールドがオープンしました。発見する新しい出会いを毎日楽しむ、「憧れ」と「楽しさ」で神戸地区No.1を目指します。



神戸阪急



高槻阪急

## 阪急メンズ OMO戦略を強化 ～店舗ホームページとEコマースを統合し、メディアコマース化～

阪急阪神百貨店は、10月5日、OMO戦略強化の一環として、阪急メンズの東西の店舗ホームページと阪急メンズオンラインストア（Eコマース）を統合。阪急メンズの情報を発信し、店頭取扱商品とオンラインストアの商品をシームレスに購入していただける“メディアコマース”としてWEBサイトをリニューアルしました。これにより、お客様の居住地に関係なく、店舗やエリアを超えた“ALL阪急メンズ”の魅力ある情報コンテンツを1つのサイトでご覧いただけるようになりました。



<https://web.hh-online.jp/hankyu-mens/>

## イズミヤ(株)と(株)阪急オアシスを2023年4月に合併 ～事業基盤のさらなる強化に向けて～

食品事業の中核会社であるイズミヤ(株)と(株)阪急オアシスを合併し、2023年4月1日から「イズミヤ・阪急オアシス株式会社」として新たなスタートを切ることになりました。

両社は、従前から、お客様起点で店舗フォーマットを見直し、オペレーションの再構築を実現するため、事業構造改革に取り組んでいます。2021年より順次、食品スーパーの戦略機能と事務所の集約、本社機能、商品・販促等の本部機能や店舗運営機能の一元化を進めてきましたが、さらなる事業基盤の強化を図るため、この度、両社を合併することとしました。2023年には、システム統合も予定しており、現在推進中の商品面、業務フロー面等オペレーションの標準化・共通化・効率化を実現し、効率性・生産性を向上させると同時に、積極的に人的投資を行い、お客様のニーズにお応えできる「人」づくり、魅力ある「店」づくりに努めてまいります。



# サステナビリティ経営

## 環境省 令和4年度地方公共団体及び事業者等による 食品廃棄ゼロエリア創出の推進モデル事業等 採択 「地域とともに実現する食品廃棄ゼロエリアプロジェクト」スタート!

イズミヤ多田店(兵庫県川西市)では、食品廃棄物の排出ゼロに向けて、アップサイクル商品の開発や、食品廃棄物を利用して作った堆肥を使用した農産物の販売を通じて、“食品廃棄ゼロループ”の構築に向けた実証実験を進めています。また川西阪急・イズミヤ多田店でのイベントの実施や地域の子どもたちが参加する「食品ロス0(ゼロ)アイデアコンテスト」の実施も行っています。地域の皆様に食品廃棄物の問題へ関心を持っていただくため、今後も、川西市で展開する各店舗で同様の取り組みや情報発信を進めていく予定です。

「食品廃棄物を堆肥へ」の現場  
イズミヤ多田店の食品廃棄物→  
堆肥化→農産物づくり→イズミヤ  
多田店で販売、「食品廃棄ゼロ  
ループ」の実証実験。

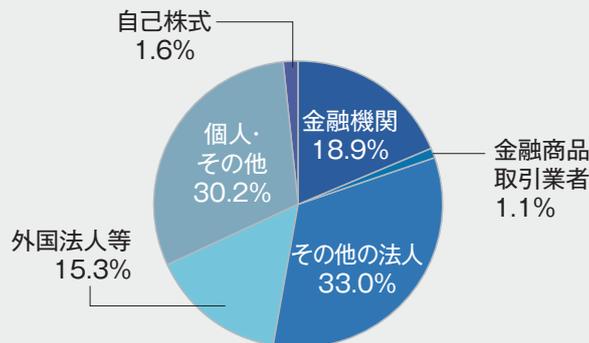


発酵が進んで堆肥ができあがるまでには、概ね1~2ヶ月。  
この堆肥でつくられた野菜が、イズミヤ多田店の店頭に並ぶ予定です!

### 株式の状況 (2022年9月30日現在)

発行済株式総数…………… 125,201,396株  
株主数…………… 62,847名

#### 所有者別株式保有状況



#### 大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
阪神電気鉄道株式会社	14,749	11.97
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	13,154	10.68
阪急阪神ホールディングス株式会社	10,336	8.39
株式会社高島屋	6,259	5.08
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	5,635	4.57
イズミヤ共和国	3,059	2.48
BNYM AS AGT/CLTS NON TREATY JASDEC	2,460	2.00
H2Oリテイリンググループ従業員持株会	1,899	1.54
GOVERNMENT OF NORWAY	1,540	1.25
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	1,165	0.95

注1: 当社は、自己株式1,978,481株を保有しております。

2: 出資比率は、発行済株式総数から自己株式を除いた数に基づき算出しております。

### 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

期末配当金  
受領株主確定日 3月31日

中間配当金  
受領株主確定日 9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座  
口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社  
※旧イズミヤ株式の特別口座の口座管理機関は  
三井住友信託銀行株式会社となります。

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
〒541-8502  
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
TEL 0120-094-777 (通話料無料)  
※三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
TEL 0120-782-031 (通話料無料)

公告の方法 電子公告により行います。

公告掲載URL  
<https://www.h2o-retailing.co.jp/koukoku>  
(ただし、電子公告によることができないやむを得ない  
事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

#### ご注意

- (1) 株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行(旧イズミヤ株式につきましては、三井住友信託銀行)が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行(旧イズミヤ株式につきましては三井住友信託銀行)の本支店でもお取次ぎいたします。
- (3) 配当金の口座振込のご指定につきましても、お手続きは、各口座管理機関を経由してお届けください。詳しくは各口座管理機関にお問い合わせください。
- (4) 未受領の配当金(旧イズミヤの株式に関する配当金を含む)につきましては、三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。

エイチ・ツー・オー リテイリング 株式会社

〒530-0017 大阪市北区角田町8番7号 Tel.06-6365-8120(代表) <https://www.h2o-retailing.co.jp>